

## 別紙 1

### 選定方法を非公募とした理由

以下の理由により、札幌駅前通地下広場（以下「地下広場」という。）及び札幌市北3条広場（以下「北3条広場」という。）（以下「両施設」という。）の指定管理者を非公募とした。

#### 1 団体の役割と両施設の設置目的・機能が一致すること

札幌駅前通まちづくり株式会社（以下「駅まち会社」という。）は、沿道地権者等が主体となって設立された駅前通地区における唯一のエリアマネジメント団体であり、「札幌駅前通地区を将来にわたり魅力ある都心の「顔」として育て、継続的かつ恒常的ににぎわいある地域づくりを進めるとともに、周辺地区と連携を図ることにより相乗効果的にまちづくりの効果を波及させ、ひいては都心全体の活性化につなげること」を目指している法人である。そして、この実現に向けて、地下歩行空間、北3条広場などの地下及び地上の空間を活用してにぎわいを創出するとともに、街並み形成の促進、まちに必要な施設の誘致を行うほか、これらの取組に関するコミュニティづくりを行うなど、ハードとソフトの両面にわたってまちづくりに取り組むことを活動の目標としている。

地下広場は、札幌駅前通地下歩行空間に多目的に活用できる空間を提供し、札幌の目抜き通りにふさわしいにぎわいを創出することにより、集客交流の活性化、新たな産業の育成及び独自の都市文化の創造を図り、市民生活の向上に寄与することを目的として設置されている。また、北3条広場は、市民等に多様な活動や休憩・滞留ができる場を提供し、都心全体のにぎわいを創出することで、集客交流の活性化と独自の都市文化の創造を促進することを目的として設置されており、両施設共に、駅まち会社がエリアマネジメントを進める駅前通地区内に設置されている。

駅まち会社はこれまで、沿道ビルの建替時における地下歩行空間との接続検討の支援のほか、両施設を一体として活用するイベントの開催など、地下及び地上をつなぐ回遊性の向上を促進してきた。

また、本市では平成28年5月に「第2次都心まちづくり計画」を策定し、「駅前通（にぎわいの軸）の強化」・「都心強化先導エリアの形成」・「地上・地下の重層的ネットワークの形成」を目指すこととしているところであるが、駅まち会社は地権者と共に協議を進め、令和元年度には、当該計画を踏まえた「札幌駅前通地区まちづくりビジョン」を策定している。

当該ビジョンでは、駅前通地区の将来像として「国内外からの多様な人々の集積と交流により様々な活動・ビジネスが創出されるまち」を掲げており、駅まち会社はこれに沿って、地下歩行空間や北3条広場を中心に、人々の活動あふれる交流・にぎわい空間の創出を進めてきた。

こうした駅まち会社の取組は、本市の「第2次都心まちづくり計画」に寄与する取組であると同時に、両施設の機能発揮に著しく有効なものである。

以上のとおり、駅まち会社と両施設の関係は密接不可分にあるほか、駅まち会社の役割と両施設の設置目的・機能が一致することから、駅まち会社が両施設を一体的に管理運営することが妥当と認められる。

## 2 これまでの管理が良好に行われていること

駅まち会社は、平成22年度から地下広場の、平成26年度から北3条広場の運営をそれぞれ設置当初から行ってきており、中心市街地の地下及び地上に設置された両施設を効果的に運営するノウハウを蓄積し、人材育成も図ってきているほか、積極的な広報活動等を行う中で、地下広場は当初の目標をはるかに上回る稼働率を維持しており、北3条広場も年々稼働率が上昇し、都心における回遊性の向上やにぎわいの創出に大きく寄与している。

また、駅まち会社は、本市の出資団体であるほか、その構成員に札幌駅前通振興会、沿道地権者や地区に隣接した企業が含まれているため、各関係機関と連携・調整する高い能力を有しており、これまでの間、両施設の適切な活用・管理を行ってきた。

さらに、駅まち会社自らの企画により、地下広場において道産品の魅力を国内外に効果的に発信するマルシェ事業のほか、北3条広場において歴史的・文化的価値が高い空間特性に合ったフラワーカーペット事業を開催するなど、数多くの自主事業を開催し、両施設の機能発揮に取り組んできた。

以上のとおり、駅まち会社は、指定管理者として両施設の管理運営を適切かつ良好に行ってきた実績がある。